

阪神・淡路大震災10周年記念

「1.17メッセージ」応募用紙

大震災を振り返って

阪神・淡路大震災は私が川西市議会議員の席を戴いて3ヶ月目の出来事で、大きな試練を受け、当日は食事をしたかどうか記憶にないぐらいの混乱でした。

電気が来てテレビで震災の全容が分かったのは昼です。地震発生直後からガス漏れの匂いがひどく、ガスの供給ストップに奔走して、火災防止に余力を傾けましたが、~~一部の住民からはガスを止めた事へのお叱りも受けました。~~火災の発生は防げたのですが、それから20日間はガスのない不自由な生活が始つたのです。

仮設住宅建設では地域住民との調整、仮設住宅には「ふれあいセンター」があるので誰も部屋から出てこないのも、代表者のご依頼で、コミュニケーションと自立支援のため『元気出そう会』を立ち上げ、木工、絵画、折り紙、大正琴などの教室を開いたり、もちつき大会などで連帯感と自立を促す活動を展開しました。行政も交替で仮設に泊まり込みなどして、孤独死は一人も出さなかったのです。

瞬時に家族、親族、友人をなくし、家や家財を失った人々は、これから一生このつらい体験を背負って行くことになります。「世の中、進歩して恐れるものは何もない」と思い上がっていた現代人こそ怖い存在です。ボランティアが活動し、助け合いを体験して、もっと自然に畏敬の念で接し、先人を敬い、人の痛みが分かちあえる、共通理念の構築、これこそ21世紀の新道徳が神戸から始まったのだと痛感し、私の人生観も変わりました。そうして『備えよ常に』をモットーに心がけたいと思います。

フリガナ お名前	すが 原	いづみ 巖	年齢	68 才
ご住所	兵庫	都道府県	川西	市 部

「1.17メッセージ」応募用紙

自分かいてできることを...

地中の岩がぶつかるような轟音と共に、未曾有の大地震が発生した朝。幸運にも自宅の被害は見受けられなかった。当日は東京出張日であったので伊丹7:20発へと急ぐ道中での「ラジオ放送」に耳を疑った。

「阪神高速が崩壊した模様と...」

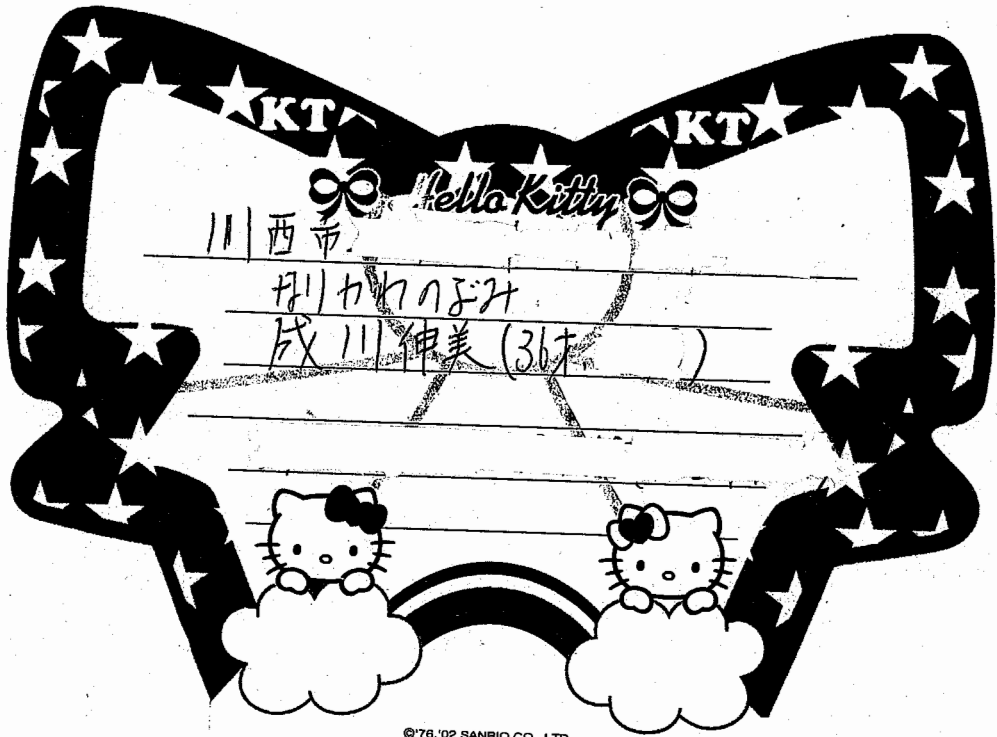
池田市へ入った途端、被害状況が目に飛び込んできた。東京行を諦め池田市の会社本社を目指した。本社玄関がラッパ音。3F執務室は書類の散乱し天井からは「水が滴り落ちていた。時間の経過と共に各地の被害が判明すると、会社の「生産車両の保管場所」の六甲アイランドの状況が心配に...

数日後の「青木駅から六甲アイランドへの徒歩」視察の日々が始まった。

液状化・岸壁崩落の埠頭・在庫保管車両の点検等...ジャンパーと長グツの1か月間であったが「自分かいてできることをするだけ」という当時の単純な教訓を忘れない。現在も本冊に「乾ききった当時の液状化の泥」を見るにつけあの惨状の日々が甦ってくるのである。

ふりがな お名前	佐保田 全弘	年齢	63 才
ご住所	兵庫 都道府県 川西 市 郡		

あの震災から、もう十年たってしまいましたが、十年というほど待つもなく長い時間のように思いますが過ぎたみるとほんとうにあつという間下、十年がたった母んで信じられませんが、平成七年一月十七日私は妊娠八ヶ月に入りましたばかりでした。住んでいた川西は、特に大きな被害はなかったものの長い間が、使えずお風呂にも入れず食事も、ハンやおにぎりはかりでした。その時、子どもは当たり前前に思えば暮らしかど川だけありがたかったかが、本当に身にしみて分かりました。そして、三ヶ月後の四月十八日女児を出産しました。地震にも負けず元気に生まれてくれました。もううれしかったです。その娘も、春には四年生で十才になります。災害は忘れた頃にやってくると言いますが、新がた中越地震や北海道地震ほど相次ぎ私も、すっかり普通に居た神戸の町がまたあんな悲惨な姿にならぬように祈っています。そして、今のこの暮らしに感謝しつつ、娘を育てていきます。



「1・17メッセージ」応募用紙

『銀のスプーン』共同自主（自費）出版活動は、87年にスタート。95年の10集で区切りとしようと考えていたが、その年、兵庫県南部地震が発生。震災体験手記などをき違そうとマスコミを通じて一般募集。被災地芸術文化活動補助の交付を受けて、その後も継続し、05年には26集刊行予定。この間、西行法師の「鼓が滝」歌碑（川西市）建立に先立って「震災のうた」を公募。バックナンバー等と共に自筆原稿を碑直下に埋設した。

『銀のスプーン』共同自主（自費）出版活動は、87年にスタート。95年の10集で一区切りとしようと考えていたが、その年、兵庫県南部地震が発生。震災体験手記などを書き違そうとマスコミを通じて一般募集。被災地芸術文化活動補助の交付を受けて、その後も継続し、05年には26集刊行予定。この間、西行法師の「鼓が滝」歌碑（川西市）建立に先立って「震災のうた」を公募。バックナンバー等と共に自筆原稿を碑直下に埋設した。

みやけ ひろまさ
三宅啓正

(お名前)

69歳

(年齢)

兵庫県

川西市

(ご住所)

都道府県

市・郡

兵庫県

復興推進課

御中

まつもとひろこ
松本裕子 (33才)
兵庫県川西市

「 1. 17メッセージ
～ 助け下ったある家族の人達へ～ 」

あの時は 保健師学校の学生でしたが

今は 産業の保健師として働いています。
(会社)

あの日、一人暮らしの私は、これから先どうしたらよいか
途方にくれていました。そんな時に勇気を持って

「一着者に逃げ下さい。」と伝えた所、よく受け入れて
下さいました。パンをわけ下って、そして

寝る場所をわけ下って、本当にありがたう

ございました。人としての優しさ、そして

非常時の判断の大切さを教え下ったことは、

今の私の生きる力になっていきます。あの時体験した

人と人と 支え合う 共に生きるという事を

これからも大切にしていきたいと思ひます。

郵送・FAX用

1.17ひょうごメモリアルウォーク2005 参加申込書

参加希望コース等 (希望コースに○を 付けて下さい)			
住 所	兵庫 都道府県	川西 市・町・村	
フリガナ 氏 名	イダ エウコ 稲井 勇子	62歳	参加総人数 (申込者を含む) 人 *2人以上の場合に記載して下さい。

1.17メッセージ欄 (記入は任意です。)

あの時(1/17)川西もゆ水と同時にむかいの山に光が走り、カラスが数百羽いっせいに空中に舞い、ガアガア鳴きだした！
ガス復旧の為他県の名の来た工事の人(その時は鳥取県)が助人をかけつけてくれました。水ばかりホリタンクに入れ、運んだ。今日が何日かわからないと
両宮の人に聞かれ、公衆電話の前で泣いた。テレビに写したされて又泣いた。